



人間性と社会性を育むまち

【1】教育環境の充実



現状と課題

現状

- 小中学校において学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善を行っている。
- 小・中合同研修会を実施し、中学校区ごとに学び方や学習規律の一貫性を図っている。
- 外部指導講師・地域ボランティアなどを活用した地域学校協働活動（小学生放課後学習、中学校アフタースクール）を実施している。
- 各種学力調査などの結果が県平均に及ばない教科がある。
- 「学校に行くのは楽しい」と思っている児童生徒の割合が低い。
- 県・全国と比較すると、「家の人と学校での出来事について話をしている」と感じている児童生徒の割合が低い。
- 自分で計画を立てて学習する、一定時間の家庭学習に取り組むなどの学習習慣が身についていない児童生徒の割合が高い。特に家庭学習の時間が1時間未満の児童生徒の割合が5割を超えている。

課題

- 学校・家庭・地域のさらなる連携
- 小学生放課後学習、中学校アフタースクールの継続
- 教職員の実践的指導力の向上

「教育環境の充実」に向けた施策の方針

地域ぐるみで総力をあげて 子どもの学力向上に取り組めます

意欲的に学び 自律心と思いやりの心を持った たくましい子どもを育てます

誰もが通いたくなる 楽しい学校を目指します

施策と成果指標			
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標		主な取組
① 地域に開かれた学校づくり	10年後 目指す姿	学校・家庭・地域の連携による教育の補完的な取組や、学校評価・教育情報を町民に広く知らせることができている。	・コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の充実 ・学校評価の充実と教育情報の積極的な発信 ・学校・地域・行政が連携した地域ぐるみの教育の推進
	成果指標	地域学校協働活動をサポートする地域ボランティアの人数 現状値 65人 ▶ 5年後（2024年）目標値 85人	
② 確かな学力を育み個性や能力を伸ばす学校教育の充実	10年後 目指す姿	児童生徒の学習意欲が向上し、全国学力テストの平均点が上がっている。	・教職員の資質及び指導力向上のための研修の充実 ・読書活動や環境教育、ICT教育など多様な学びの場の充実
	成果指標	中学校の全国学力テストにおける県平均との乖離率 現状値 1.5% ▶ 5年後（2024年）目標値 1.5%	
③ 心づくり・体づくりの推進	10年後 目指す姿	児童生徒が夢や志を持ち、高い自尊感情のもと、学力・体力の向上や、働くこと、生きることにに対する意欲が高められている。	・心の教育の推進 ・キャリア教育の推進 ・体力向上の取組の推進
	成果指標	「夢や希望を持っている」と答えた児童生徒の割合 現状値 75% ▶ 5年後（2024年）目標値 80%	
④ いじめ・不登校などに対する生徒指導体制の確立	10年後 目指す姿	専門相談員と連携し、児童生徒の悩みや不安などの実態把握に努め、いじめや不登校を未然に防ぐ体制が各学校でできている。	・いじめの未然防止と早期発見・早期対応 ・不登校の予防・早期対応 ・教育支援、相談支援体制の充実
	成果指標	不登校児童の復帰率 現状値 25% ▶ 5年後（2024年）目標値 27%	
⑤ 特別支援教育の充実	10年後 目指す姿	特別支援教育が必要な児童生徒に対して、個別の教育的ニーズに応じた支援体制や環境整備ができています。	・一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
	成果指標	特別支援学校教諭免許状の保有率 現状値 4.7% ▶ 5年後（2024年）目標値 5.0%	
⑥ 安心安全で快適な教育環境の整備	10年後 目指す姿	すべての小中学校においてICT教育が円滑に実施できる環境が整い、タブレットなどを使った効果的・効率的な学習が実践できている。	・適切な学校施設の維持管理と老朽化対策の推進 ・ICT教育の基盤となるWi-Fi環境などの整備
	成果指標	各学校におけるタブレット配置数 現状値 7人に1台 ▶ 5年後（2024年）目標値 5人に1台	

目標の実現に向けて



- （家庭）子どもの発達段階に応じた望ましい生活や学習習慣、決まりを守る習慣を身につけさせます。
- （家庭）学校での出来事について子どもと語り合う時間をつくります。
- （地域）読み聞かせや学習ボランティアなど、趣味や特技を学校での教育活動に生かし支援します。



- ◆ 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業改善に努めます。
- ◆ ICT（電子黒板やタブレットなど）を活用し、指導方法の工夫改善に努めます。
- ◆ 外部指導講師・地域ボランティアなどを活用した地域学校協働活動（小学生放課後学習、中学校アフタースクール）を継続して実施します。





【2】グローバル人材 の育成



現状と課題

現 状

- 近年のグローバル化により、人、モノ、情報が国境を越えて行き交い、産業や観光などさまざまな分野で交流が活発になっている。
- 全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置して小学校外国語活動・英語科および中学校外国語科学習の充実を図るとともに、留学生との交流活動を通じて英語コミュニケーション能力を身につける取組を行っている。
- 全中学生を対象にした英語検定試験や筑前町英語スピーチコンテストを実施し、英語で表現する力の強化に取り組んでいる。

課 題

- 英語コミュニケーション能力の育成
- 国際交流を目的としたイベントの企画
- ICTを活用した国際交流

「グローバル人材の育成」に向けた施策の方針

子どもたちの英語コミュニケーション能力を育てます

町民が外国語に親しむ機会を提供します

ICTを活用した国際交流を推進します

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	
① 英語コミュニケーション能力の育成	10年後 目指す姿	町内の小中学生において、英語で伝える力が養われ、それをコミュニケーションに活かすことができる。
	成果指標	中学3年生の卒業時までの英検3級取得者の割合 現状値 35.1% ▶ 5年後（2024年）目標値 50.0%
② イベントを通じた交流機会の創出	10年後 目指す姿	外国人と町民が交流する文化イベントやスポーツイベントが開催され、国境を越えた交流の機会が設けられている。
	成果指標	国際交流イベントの開催数（年間） 現状値 2回 ▶ 5年後（2024年）目標値 3回
③ ICTを活用した国際交流の推進	10年後 目指す姿	テレビ会議システムなど、ICT技術の活用によって海外の人と気軽に交流し、その文化などに触れる機会が設けられている。
	成果指標	ICT活用による国際交流イベントの実施回数 現状値 — ▶ 5年後（2024年）目標値 1回
		・外国語指導助手（ALT）を活用した外国語授業の充実 ・筑前町英語スピーチコンテストの実施 ・留学生との交流活動の実施 ・国際交流イベントの開催 ・テレビ会議・Web会議システムの導入検討 ・海外の交流先の検討

目標の実現に向けて


わたしたち
にできること
（個人・家庭・地域）

- （小中学生）英語コミュニケーションの楽しさを体験するため、留学生との交流や英語スピーチコンテストに積極的に参加します。
- （中学生）英語検定試験3級の合格を目指します。
- （個人）国際交流イベントに積極的に参加して外国人の友達をつくります。


行政が
努めること
（役場・関係機関）

- ◆ 外国語指導助手（ALT）の配置や留学生との交流活動などをととして生の外国語に触れる機会を増やし、英語コミュニケーション能力の向上に努めます。
- ◆ 町民が気軽に外国人と交流できる場を創出します。



【3】読書活動の推進



現状と課題

現状

- 読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするなど、さまざまな効果をもたらすことから、本町では読書活動を推進している。
- 町ではコスモス図書館とめくばー図書館の2つの施設を有し、年間約13万5千人が利用している。
- 筑紫野市・小郡市・朝倉市・東峰村・大刀洗町・うきは市・久留米市の7つの近隣市町村と広域利用協定を結び、相互に利用できるようになっている。
- 「定例おはなし会」など、町の図書館ではさまざまな読書推進のイベントを行っている。

課題

- 学校・家庭・地域の連携による子どもの読書習慣化
- 学校・家庭・地域・民間が一体となった読書活動の推進
- あらゆる年代における読書の啓発と町立図書館の積極的利用の促進
- 図書館の充実

「読書活動の推進」に向けた施策の方針

読書が好きな子どもを増やします

読書の良さを広く周知し 読書活動を推進します

図書館サービスのさらなる向上に取り組みます

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	
① 読書の習慣化の推進	10年後 目指す姿	あらゆる世代が読書に親しみ、言葉の学びや表現力・想像力の向上、ストレスの解消などに役立てられている。
	成果指標	町立図書館における貸出冊数（年間） 現状値 5年後（2024年）目標値 298,534冊 ▶ 299,000冊
② 読書環境の整備	10年後 目指す姿	町民の多種多様な読書ニーズに応じたさまざまなジャンルの本や資料が揃っており、適正に管理されている。
	成果指標	町立図書館の蔵書数 現状値 5年後（2024年）目標値 229,518冊 ▶ 230,000冊
		・ブックスタート事業による乳幼児期からの読書習慣の定着化 ・家庭・地域・学校の連携による子どもの読書習慣化の取組 ・小中学校における読書活動の普及・啓発 ・イベントを通じた読書活動の普及・啓発
		・図書館の充実

目標の実現に向けて


わたしたちにできること
 （個人・家庭・地域）

- （個人） コスモス図書館やめくばーる図書館で本を借りて、毎日読書をします。
- （個人） 通勤・通学の時間や仕事の合間を利用して本を読みます。
- （地域） 小さい子ども向けの絵本の読み聞かせ会を開催します。


行政が努めること
 （役場・関係機関）

- ◆ 読書の良さを再認識し、多くの町民に伝えます。
- ◆ 展示の内容を工夫し、魅力ある図書館づくりを推進します。



【4】青少年の健全育成



現状と課題

現状

- 基本的な生活習慣を身につけるとともに、地域の教育力の向上を目的とした通学合宿を町内4か所で開催するなど、青少年の体験活動を行っている。
- 近年、小中学生のスマートフォンやゲーム機器の長時間利用の割合が高いなど、メディア接触が問題視されている。
- 近年の核家族化や地域とのつながりの希薄化に伴って、対人コミュニケーションを苦手とする青少年の割合が増えており、集団の中で人間関係を築くことができない、維持できないなどの理由でひきこもりや不登校となるケースが全国的に増えている。

課題

- 青少年体験活動の活性化
- 青少年を見守る組織、団体の活動支援
- ソーシャルメディアの正しい利用の周知徹底
- 家庭における生活習慣の改善や情報モラルの育成

「青少年の健全育成」に向けた施策の方針

規範意識や自尊感情が高い子どもを育てます

豊かな人間性と高い社会性を持った たくましい子どもを育てます

地域・学校の連携協働により 地域全体で子どもを見守り育てます

用語解説

- ※筑前町子どもの約束 … 基本的な人間力をつけ、どんな場面や場所でもたくましく生き抜くことができる“筑前っ子”に育ってほしいという願いや想いが込められた7つの約束事。
- ※ネット4（し）ない宣言 … 携帯電話やスマートフォンなどの正しい利用について筑前町立中学校生徒会が作った4つの宣言。

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	
① 体験・交流活動の実施と参加促進	10年後 目指す姿	地域住民や公民館などの協力のもと、小学生を対象とした通学合宿が開催され、集団生活や地域とのふれあいなどを体験する機会が設けられている。
	成果指標	通学合宿開催箇所数 現状値 5年後（2024年）目標値 4 か所 ▶ 4 か所
② 青少年健全育成体制の強化	10年後 目指す姿	青少年育成町民会議を中心に、地域全体で子どもの成長を見守る機運が醸成されている。
	成果指標	青少年育成町民会議によるパトロールやあいさつ運動の実施回数（年間） 現状値 5年後（2024年）目標値 38回 ▶ 38回
③ 家庭・地域の教育力の向上	10年後 目指す姿	家庭・地域が連携し、地域の子どもの地域で育てる環境づくりに取り組んでいる。
	成果指標	青少年ドッジビー大会の参加チーム数 現状値 5年後（2024年）目標値 35チーム ▶ 35チーム

目標の実現に向けて


わたしたちに
できること
（個人・家庭・地域）

- （個人）青少年ボランティアバンク活動に参加します。
- （個人）学校や家庭、地域で元気に挨拶をします。
- （個人・地域）通学合宿をはじめ、野外活動や交流会などの体験交流活動に積極的に参加・協力します。
- （家庭）スマートフォンやインターネットの使い方について話し合い、ルールを決めます。


行政が
努めること
（役場・関係機関）

- ◆ 青少年がさまざまな活動をととして豊かな人間性を育み、次代の担い手として健全に育成されることを目的とした各種活動や交流体験の企画、実施に努めます。
- ◆ 非行や犯罪の低年齢化、凶悪化、ひきこもりの増大など、青少年をめぐるさまざまな問題に的確に対応する体制を整え、青少年を地域全体で見守り育てます。
- ◆ 小中学校などと連携して、ソーシャルメディアの適正な利用など、情報モラルの育成や生活習慣の見直し・改善を呼びかけます。





【5】平和教育の推進



現状と課題

現状

- 筑前町立大刀洗平和記念館は「平和の情報発信基地」として、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世へ伝える役割を担っている。
- 学校関係の入館者数は増加しているものの、一般の入館者数は減少しており、入館者数全体は減少傾向にある。
- 戦後70年以上が経過し、戦争体験者が少なくなっている。
- 大刀洗飛行場跡地周辺には戦跡が点在し、戦跡フィールドワークなどの平和学習に活用されており、戦跡保存のために掩体壕（えんたいごう）の取得を行っている。
- 町内の小中学校では、学校や大刀洗平和記念館において平和に関する学習を行ったり、中学生ボランティアガイドの育成などを行っている。

課題

- 筑前町立大刀洗平和記念館における平和を語り継ぐ取組の充実と入館者数増加の取組
- 町内に点在する大刀洗飛行場戦跡などの整備、活用、保存
- 小中学校における平和に関する学習の充実

「平和教育の推進」に向けた施策の方針

大刀洗平和記念館を核として 戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語り継ぎます

命の尊さ 平和の大切さを感じる平和事業や 平和に関する学習を推進します

大刀洗飛行場戦跡の保存と活用に努め 平和関連施設との連携を深めます

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	
① 平和に関する学習への支援	10年後 目指す姿	町内小中学校において平和に関する学習の時間が確保され、子どもたちが戦争の悲惨さ、命の大切さについて考えることができています。
	成果指標	町内小中学校における大刀洗平和記念館の来館数（年間） 現状値 6回 ▶ 5年後（2024年）目標値 6回
② 筑前町立大刀洗平和記念館の「平和の拠点機能」の強化	10年後 目指す姿	大刀洗平和記念館を訪れ、多くの人が、戦争の悲惨さや、戦争によって命を奪われた人やその家族の悲しみについて考えることができています。
	成果指標	大刀洗平和記念館の来場者数（年間） 現状値 94,000人 ▶ 5年後（2024年）目標値 100,000人
③ 周辺戦跡などの保存と活用	10年後 目指す姿	掩体壕（えんたいごう）の整備が完了し、大刀洗平和記念館と関連した戦跡資料として、平和に関する学習などに活用されている。
	成果指標	戦跡フィールドワークの実施回数(年間) 現状値 38回 ▶ 5年後（2024年）目標値 50回

目標の実現に向けて


わたしたちにできること
（個人・家庭・地域）

- （個人）私たちの住む町の戦争の歴史を学び、命の尊さや平和の大切さを家族や友人と話します。
- （個人）戦争体験者のおじいちゃんおばあちゃんの話の聴いたり、手記を読んだりして、戦争について考えます。
- （個人）大刀洗平和記念館で戦争の資料や展示物を見て、戦争の悲惨さや平和の尊さを学びます。


行政が努めること
（役場・関係機関）

- ◆ 小中高等学校などと連携し、平和に関する学習の取組を継続して実施します。
- ◆ 全国の平和関連施設などと連携を深め、平和事業や平和に関する学習のさらなる充実に努めます。
- ◆ 大刀洗平和記念館の全国知名度を向上させ、北部九州の平和の拠点として運営の充実に努めます。





【6】文化の振興と 歴史の継承



現状と課題

現状

- 「筑前町マンスリーコンサート」を開催し、町民が気軽に芸術や文化に触れる機会を提供している。
- 筑前町文化協会の主催で「ちくぜん文化まつり」が毎年開催されている。
- 国指定史跡の仙道古墳や焼ノ峠古墳、国指定重要文化財の栗田遺跡出土品など11件の指定文化財や、大刀洗飛行場戦跡など、貴重な歴史資源が町内に数多く残っている。
- 遺跡からの出土品が収蔵箱で16,500箱あり、町内6か所で分散管理している。

課題

- 芸術・文化イベントへの町民の参加促進
- 筑前町文化協会の活動支援
- 文化財や歴史資源の効果的なPRと活用
- 指定文化財や出土品などの適正な保存

「文化の振興と歴史の継承」に向けた施策の方針

芸術文化に触れる機会を提供し 交流の場を増やします

貴重な文化財の継承や適正保存に努めます

文化財の価値を把握し さまざまな面で活用します

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	
① 文化振興の支援	10年後 目指す姿	筑前町文化協会の活動や筑前町マンスリーコンサートなど、芸術・文化活動が定期的に行われ、町民が身近なところで芸術・文化に触れることができている。
	成果指標	ちくぜん文化まつり参加団体（個人含む） 現状値 67団体 ▶ 5年後（2024年）目標値 67団体
② 文化財の保存と活用	10年後 目指す姿	文化財が適正な方法で保存・管理され、歴史民俗資料室において定期的に企画展を開催し、多くの町民が町の歴史や文化財について学ぶことができている。
	成果指標	歴史民俗資料室の常設・企画展の来場者数（年間） 現状値 50人 ▶ 5年後（2024年）目標値 250人

目標の実現に向けて


わたしたち
にできること
（個人・家庭・地域）

- （個人）町にある遺跡などを調べて、この町の歴史を学習します。
- （個人）ちくぜん文化まつりに参加して、たくさんの人と文化交流を楽しみます。
- （個人）筑前町マンスリーコンサートに出かけ、芸術や文化に触れ、感性を豊かにします。


行政が
努めること
（役場・関係機関）

- ◆ 町の文化活動をより多くの人にPRし、参加を促します。
- ◆ 文化振興の一環として開催される文化まつりを支援します。
- ◆ 文化財や歴史資源などを適正に保存し、その魅力を伝えていきます。





【7】生涯学習の推進



現状と課題

現状

- 町民の幅広いニーズに応えるため、めくばーやコスモスプラザ、公民館、図書館などを拠点に、世代に応じたさまざまな講座や教室を開催している。
- 社会教育団体の育成や自治公民館の活動支援、生涯学習に関する情報の提供などを行っている。
- 公民館講座・自主講座ともに、若い世代の参加が少ない。
- 国立夜須高原青少年自然の家には町外からも多くの利用者が訪れ、さまざまな自然体験活動が行われている。
- 地域のつながりの希薄化により、自治公民館活動や子ども会活動が減ってきている。

課題

- 公民館講座の継続実施
- 町民のニーズに沿った特色ある学習プログラムの整備と提供、総合的な学習環境づくり
- 生涯学習活動によって得られた成果を生かすことができる環境の整備
- 自治公民館及び子ども会活動の活性化

「生涯学習の推進」に向けた施策の方針

公民館で魅力的な講座を開催し 多くの人に楽しんでもらえるように工夫します

公民館や公民館事業の活性化を図ります

国立夜須高原青少年自然の家などと連携し 生涯学習活動を推進します

施策と成果指標		
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標	主な取組
① 充実した学習プログラムの整備と提供	10年後 目指す姿	・各世代の学習ニーズや地域特性・地域資源を踏まえた特色あるプログラムの整備と提供 ・各分野における指導者の育成と確保、多様な知識や技能をもった人材の活用
	成果指標 現状値 5年後（2024年）目標値 140回 ▶ 140回	
② 生涯学習関連施設の利活用	10年後 目指す姿	・生涯学習施設（めくばーる学習館・町民ホール・第2学習館・コスモスプラザ・公民館支館など）や国立夜須高原青少年自然の家など各施設の有効活用
	成果指標 現状値 5年後（2024年）目標値 156,994人 ▶ 158,000人	
③ 公民館の機能を生かした人づくり・地域づくり	10年後 目指す姿	・自治公民館の活性化 ・子ども会活動の活性化
	成果指標 現状値 5年後（2024年）目標値 8 件 ▶ 10 件	

目標の実現に向けて


わたしたちにできること
 （個人・家庭・地域）

- （個人）家族や友人、会社の同僚と公民館講座に参加します。
- （地域）地域の子どもたちが参加する体験活動を実施します。


行政が努めること
 （役場・関係機関）

- ◆ より多くの人に公民館で開催している講座を知ってもらえるよう、広報活動に努めます。
- ◆ 町民が気軽に参加できる講座づくりに努めます。
- ◆ 公民館の機能を生かした人づくり・地域づくりを行います。



【8】スポーツの振興



現状と課題

現状

- 町民マラソン大会や町民ソフトボール大会などを開催しているが、参加者や参加地域に偏りがある。
- スポーツを楽しむために利用できる施設が町民にあまり知られていない。
- スポーツ少年団の活動が活発に行われている。
- 筑前町体育協会により各種スポーツの振興がされている。

課題

- 町民向けスポーツイベントの活性化と参加促進
- 体育施設の維持管理と利用促進
- 筑前町多目的運動公園（筑前ぼぼろ）を活用したスポーツイベントの実施
- スポーツ少年団の活動支援
- 筑前町体育協会の活動支援

「スポーツの振興」に向けた施策の方針

たくさんの人でにぎわう楽しいスポーツイベントを開催します

多くの町民が年齢に関係なくスポーツを楽しむことができる場所を提供します

スポーツをととして 健康や地域のつながりを考える機会を提供します

施策と成果指標			
施策の内容	10年後目指す姿と成果指標		主な取組
① 体育施設の整備と利用促進	10年後 目指す姿	体育施設が適正な管理のもと有効活用され、多種多様なスポーツイベントを開催し、多くの町民が参加している。	・体育施設の整備 ・筑前町多目的運動公園（筑前ぼぼろ）でのスポーツイベント開催 ・体育施設の利用案内の充実
	成果指標	筑前町スポーツフェスタの回数（年間） 現状値 4回 ▶ 5年後（2024年）目標値 4回	
② 筑前町体育協会や筑前町スポーツ少年団の活動支援と活性化	10年後 目指す姿	筑前町体育協会や筑前町スポーツ少年団が安全面に十分に配慮しながら運営され、活発な活動が行われている。	・筑前町体育協会の活動支援 ・安全に配慮した活動の支援や指導 ・筑前町スポーツ少年団への加入促進
	成果指標	筑前町体育協会・筑前町スポーツ少年団の団体数 現状値 32団体 ▶ 5年後（2024年）目標値 32団体	

目標の実現に向けて


わたしたちにできること
 （個人・家庭・地域）

- （個人）空き時間に家族や友人とランニングをして、町民マラソン大会に参加します。
- （個人）各種スポーツ大会に参加して地域の人とスポーツを楽しみます。
- （個人）休日には家族や友人と町の施設を借りてスポーツを楽しみます。
- （小中学生）スポーツ少年団にはどのようなクラブがあるのか調べて、やりたいクラブに参加します。


行政が努めること
 （役場・関係機関）

- ◆ より多くの人に体育施設を気軽に利用してもらえるよう、周知に努めます。
- ◆ 安全で楽しくスポーツを楽しむことができるよう、施設の維持管理に努めます。
- ◆ スポーツ少年団に参加する児童生徒や指導者らの安全な活動を支援します。

